

一名 京案内手引草  
京名所順路記

ル 4  
5052





此所京名所繪圖

F 40- 9988



2.1

英民於此種範圍

1



以下

4 丁

白紙



門ル  
號5052  
卷

京名所順路記洛中の部

三條大橋五十七間三寸  
中四間一尺

天正十八年造五ヶ所河川小川  
奉那と橋柱と石と造るは  
け橋と始り寺擬宝珠の流  
洛陽三條之橋至後代化  
度往還人盤石之礎入地  
五尋切石之柱六十三本  
盖於日域石柱橋盪觸乎  
天正十八年庚寅正月日

豊臣初之御代奉

増田右衛門尉長盛造

鴨川の水流は也車坂の林際より  
出てお前山那の社前と廻すゆへ  
かも川より入流を經て淀川に合

増水寺本堂町  
津土宗

信おちくしちちと



本堂の跡地は仙僧徳を子傳  
開泰三年空桂寂和為本願  
白秀次公の母重隆庵院殿あり  
文禄四年七月十五日秀次公高井  
にその山生雲あり也其年  
余人は此を刺死し固穴に埋  
を築て鬼逆塚と號す

三條小橋  
高井川の如き  
三条の南あり

野河と合ちて上流は是より河川  
と今昔是の位より本堂その外  
里邊のたれ造り所あり

金剛山多田寺  
古所三條角  
津古宗

本堂地盤満ち上人能  
日婦落古  
津古宗

曼陀羅心天姓寺  
本堂の跡地は仙僧徳を子傳  
法如尼像日地十面鏡を善藏  
始創寺と云ふ家奉昭基上人

南古小法尼の織と云ふの仏  
一丁あり

本心本能寺  
古所婦落  
わ

法苑精舎洞家善美日隆上人  
始創寺と云ふ角あり。織田信長  
の塔あり。天正十年六月百光  
秀のちと自堂と

妙塔山妙法寺  
寺所三條

法苑精舎洞家善美日隆上人  
始創寺と云ふ角あり。織田信長  
の塔あり。天正十年六月百光  
秀のちと自堂と

本持寺  
河内所三條  
上

智加子身田の地あり本堂の跡  
地ありとの地

華堂  
古所所金所  
仍新古と云ふ

天正宗 寺領武十石



奉り上りて西御所を普賢院に奈  
行ふと人化物ありて六月六日  
新所ありて依りて五月廿五日と  
つゝ西園十九番ねほりて  
下法雲社  
下 寺町九所

八月十八日西御所より七月十八日  
寺所廣敷路と申す其の西と  
して法雲社ありてと奉りて  
法雲社あり

○ことより法所極ありて  
水の過丸を所通と申す  
丁のたの丸能敷ありて  
内のだの丸能敷ありて  
司敷の能敷ありて丁行ハ

林示裏御所

惣構の西築地の東南門  
と日山門 南角を西門西の

古ふらとを公の西門西の西  
ありて西御所の西の西の西  
朝の西門と申す内門あり  
宸殿法雲殿因侍所神前殿  
弘の所寺堂殿と申す先より  
殿園莖と申す鴨。○毎年  
正月十九日香の焼とては宸  
殿の西前とては法雲  
○二月三日西御所とて是因殿  
のよとて西御所  
○七月十日十日殿上の西門の  
橋例不短と御家をかきと  
よりなりて西御所と申す  
○御所の日因侍所法雲  
はにを及ハ難人信尼とも辨  
とて西御所と申す

准后御殿

林示裏西所の西の西の西  
ありて西門内 辨尼と申す



仙洞御所

大宮御所

○内裏熱田梅の里方小九門を  
 開き上より下なる石室門  
 中央小法和院門又廣少苑  
 門より下りて右所門九を所  
 通不悟所門鳥丸庭の上中  
 立門中央と院門下  
 下立門今全川通今全川  
 門乾の角小乾門あり

○四所様おん麻と法和院  
 出右所庭上中門下  
 ひくく右海と形相  
 ○又右所庭中門より  
 上門と庭と形相  
 此と全川門出を  
 全川門相  
 形相



光り山本寺  
十五丁  
古所石蓋所  
四門のち

法華寺  
新也五條一尺寺  
三丁わり

廣布山本満寺  
十八丁  
古所石蓋所  
一丁上

佛池寺  
十八丁  
古所石蓋所

華宮山十念寺  
十九丁  
古所石蓋所

弘海の名所  
古所石蓋所



蓮華山の蓮華

幸所  
蓮華

淨土宗を奉る法院は法所の地  
開基法王上人。織田信長公  
信忠公の善業を幾死の巨首  
二十人の連牌有り

光明寺

日所

淨土宗を奉る法院は法所の地  
大原の地字於文入及蓮生寺  
中不抱止しと云ふ抱止の如  
素と名く

威王山長徳

日所

光徳寺

日所

寂樹心西園寺

日所

万松山天寧寺

日所

上呂寺

古所  
淨土宗

閑外菴

日所  
淨土宗

上清寺

日所  
淨土宗

淨土宗を奉る法院は法所の地  
開基法王上人。織田信長公  
信忠公の善業を幾死の巨首  
二十人の連牌有り

万年山相国寺

日所

淨土宗を奉る法院は法所の地  
開基法王上人。織田信長公  
信忠公の善業を幾死の巨首  
二十人の連牌有り

具足山妙覺寺

日所







新のしん又忽ち種生し  
たり淨花は故より又といふ  
る座りしより座橋といふ  
淨師の名橋とて婦人嫁入  
りけりしとて因す 四丁西  
にあり

浄土宗を奉りしは弘法大師  
此宗を奉り奉りし人あり  
別名すは細江を奉り 二丁西  
にあり

安徳の太師  
浄土宗を奉りしは弘法大師の他  
ふり出て三丁也なり

殺舟の味院  
今出川  
あり

百五十石  
本寺の浄土宗を奉りしは弘法大師の宗  
其甚急意とて奉りし和名と出川あり

横重衣内及坊より極楽浄土の  
の神牌と事奉りし。此の寺  
定家等の造り所なり方丈の  
後あり

五逆の山  
浄土宗

四丁西  
あり

卯本山妙蓮寺  
あり

浄土宗を奉りしは日蓮上人あり  
什宝の折向の奉りしとて日蓮  
上人の奉りしものなり  
先教院の山寺なり下は白雲  
寺なり此は日蓮上人の掛川  
あり  
勿ち大教院日及ふけとて  
日蓮上人の奉りしは日蓮上人  
あり

光院  
あり

三十九丁



けち地たる正長寺の年々法  
聖澤正の属ありて後寺院  
寺梅あり梅法住内通院  
檀越より申へとも内通院  
寺先義士の塔あり又大石  
内通院の傍禪世の結成出  
籍ありし寺あり 四丁あり

今文沖旅所

四十五丁

毎年五月七日より梅法と安  
寺又九月十五日十六日梅と

能例あり 二丁西小

雲林院

梅法あり  
寺五十五石

白院の元梅和帝の離宮  
ありて後三曆帝の心宮  
正通院を別ありて大伽  
藍の大寺ありしその後  
名を廢してより不詳なる  
親を寺とありて姓古の



令園寺

夜堂山の林業  
佛花院と云

徑家寺於 二百石

寛永四年御軍足利氏海云

遠堂と堂の横園より舟を

法水院と云ふと安永五年に

堂の字と御寺字といふ自

然本の記者と安永二年目

と宛堂頂と云ふは板

之間四方板板より御堂

く今堂泊と押と板今堂

と号と園の三方板より

その子と云ふの園と号す其

絶り地より往古境内

廣大なりと熱川の紙屋川

少なりと云。後石高の

小なり石高水田の七丁

ひらの中  
野社

四十三丁

社 石 百 石



多神合身神 日年武子  
 久度神 神宮 古用神  
 高階氏 比咩神 大石氏  
 比升中名清原菅原秋  
 藤田姓の祖神天徳日命  
 二丁りり

水野天満宮  
 社殿 又百八十石  
 中央友神東向中形  
 西より天秀二年七月右  
 系七系の子とつ女小  
 神院まじり朝日寺の傍  
 最盛と力と合せはあふ社  
 と建立を後天徳三年右  
 左后降輔公改元て造宮  
 ありふあふの一方一町  
 谷川より紙屋川といふ廿五丁りり

二條山城  
 二丁

神泉苑  
 池  
 妙入

善如童主と幼清と大池と  
 法成苑池といふ大内裡の時  
 柿原の境内かして子子  
 遊覧の地よりえねのは是雅  
 とらへ給再興してまゝの  
 天崎とて

比叡山宮  
 浄土宗  
 七丁りり

比叡山宮  
 浄土宗  
 七丁りり  
 毎歳末市仲小  
 ありこのときをとりり



四月三日大御所とあはして  
扱はる夜宿と降る廿七丁

大光寺

海川村  
大光寺

法花一致流古刹百子石  
石を山より用基日胡菩薩  
初光あり加縁念ふり自ら和  
元年日初上人をふり川を  
法重坊を築

法花一致流古刹百子石  
石を山より用基日胡菩薩  
初光あり加縁念ふり自ら和  
元年日初上人をふり川を  
法重坊を築

壬生寺

弘光寺  
廿三丁

古言律 寺於四古石  
寺を地蔵井定勢能開基  
鑑高和尙より毎年二月廿日  
より廿四日迄大念仏執り行りて  
相公とあり。此地の古蹟を  
壬生寺とて名物海の古蹟を  
と更七丁

岩原傾城町

岩原町  
廿九丁

西抄を委とてふ

傾城町を記し後承安七年  
年乙未の如室所が西羽尾に  
之を仰ふりしる之を一町  
とも号し又後承安十八  
年今の岩原村ふりしる  
を此記前修系の一擧と記し  
たふがけ一廊も廿四ふりし  
うりし一擧の廿四せしふ  
似たりとて修系とて名せり  
その廊の名をうりたり五丁あり

万祥寺

八条橋  
廿四丁

万祥寺  
廿四丁



南無阿弥陀仏と云ふ經甚公の  
教令ありしと云徳年中  
其公の後身と云ふて六條  
王控現と云ふしその後海金  
右右右身物云後室と位經  
尼のふ徑りひ云言律所と  
清して尼と云ふらふ故ふた  
と云ふ。此經王社毎年九月  
十日の仲のり

秘密は後  
左宮八条  
三十四丁

俗ふ事と云ふ  
古言の事守然て云千石  
開祖弘法大師は此の太内理  
の清徳殿といひて身物の室  
客を然る松と云ふと云ふ  
右室の大師と云ふ事云外  
今堂講堂食堂といふ  
堂今有り。又重塔高き千  
九百拾中なる也云云



東本願寺

東六条

二十丁

心經堂... 招穀... 小寺巧... ねん... 馬... 十四丁

因幡堂

お東本願寺の  
ちんぼん

如來の... 病院... 留... 任限...



如來又とひ年りて竹の心鑑  
 お出現らしむるをりきて出度  
 こりり合せたる其若龍のよふ  
 安し鑑をて修寺とるす  
 故ふ如來甚と居るくして差  
 經のよふまふふ後光を  
 の園品ふとくまが申へちとを  
 ちちとてつとて

佛光寺

三丁坊  
 仏光寺通  
 柳場西

浄土  
 石  
 本寺ありて意覺の地用  
 三丁坊

仏性山本堂

下

浄土  
 二十石  
 本寺ありて地安の地用  
 玉箱上人あり

〇 坊に地入りて寺  
 〇 坊に地入りて寺  
 一丁坊

新善光寺

五重塔あり

一丁坊 〇 新善光寺  
 時宗天皇長年中檀林皇后の  
 建立之開香の仏法大師あり  
 中興皇初上人堂風と改む  
 本寺ありて安らゆの地用  
 の本寺ありて信を修えちの如來  
 と持釈尊ありて寺ありて其  
 寺像にて坊中居るなり  
 又い坊中廟と折て産業  
 ありて

〇 坊通ありて二丁坊あり  
 坊ありてつとて

龍池寺

寺ありて

本寺ありて地安の地用  
 安上人ありて地安の地用  
 〇 坊に地入りて寺  
 信忠と石碑あり



祇園淨旅所

宇東市所角

威神院祇堂を牛路を至り旅所にて毎歲六月七日十日中にて神樂を奉る所の法に於てなるを五日も終心解をあらふ引くこと無く  
 水の方にて八王子市の南に女物井の交居らる女物井の姓古なる所行金所中の人王坐する鳥丸の古く古所所なりしと古所古公の命をあらふに於て古所所なり洗井鳥丸浄水所なりて今ふ七日より十日まで井水を引く浄水とくまじむ  
 官者殿も方柱文の社といふ十月十日祭文といふとく商人於女小解集るなり

わたりり

綿後山金蓮寺

寺山田東

時宗寺なる河津池畔を浄土上人甲斐守と号す南寺の流例を代々の住持日名守杜筋松堂後なる郭公於小入と記すは松を吸ゆるとあり○古河深敷地を弘法大師の化すを井掘りたり芝居古宇後者といふ法名を記す及所せん念解る紐切杯の物也

錦文神社

寺山田

時宗寺なる所を深敷と号すは古心欽尊をもちといふ  
 大本山高福寺  
 日持寺

源州流義一本山高福寺  
 左寺ありは法興上人の祀



昇堂初上人

。坊基原をまき、坊基如來石  
縁、又、坊基、大所、能、水、洞、  
と、い、ふ、也

おとろり

### 長令寺

一言堂  
もろり

本寺、釈迦を青き菩薩、弘法  
大師の他、法師、釈迦、め、り、  
おとろり

### 清常寺

もろ地蔵  
と

淨土宗、法不、後、常、地、蔵、と、い、ふ  
本寺、地、蔵、を、行、基、希、地、蔵  
婦、所、不、後、常、と、い、ふ

### 誠公院

信和堂  
アキと云

本寺、阿彌陀、聖、園、白、石、堂、の  
基、刻、あり、。和、和、式、の、塔、あり  
塔、の、傍、古、木、の、木、あり、これ  
新、塔、あり、と、い、ふ

アキ







二條川東  
七丁

法光宗園西の身正と称す用  
山日者上人 廿四丁

聖護院森  
丸左町通  
川端二丁東

徳井寺所の後白河法皇勅額  
して徳井寺の古碑と号す此造立  
あり故ふ新徳のよふ 二丁東

聖護院宮  
沖飯  
千五百石

徳光寺の古碑と号す此造立  
あり故ふ新徳のよふ 十一丁西

長徳心知恩寺  
号五百石  
田中村

浄土宗法西口の寺古園を  
お新徳寺を新徳心知恩寺  
と稱他後たご寺の古碑と  
号す此造立あり故ふ新徳のよふ

新せり上人一七〇〇  
石念仏石より一百万遍を  
於て疫病止む力不百万遍  
の号とせり 四丁

干菜心光御寺  
七由川口  
川より東

信ふりかちといふ  
六井念仏の奉りたり例年  
二月廿五日執行を 三丁

鴨社  
社終  
五百八十石

本社の祀皇太后神宮山城  
園一の社なり。此舎社の  
古の入口より茶室四月  
中園ノ日社前ニ川あり此州  
ともいふ此社を 五十丁

上かみ水神  
社終  
二千五百石

本社の合意より此社を  
本社の社なり此城を 一宮と



社に七重の城垣あり已前  
と稱する所あり後山前  
川を以て名を神地とす  
又日鏡の御日御孫二月  
より七月御日鏡あり

淨菩薩池

上かも東  
楠枝の由

西は法原といふ所あり  
浄土地あり

松崎山母屋

松崎山母屋村

世五丁

法苑宗廟を奉じ毎  
七月十六日夜は村の男女  
等集りはた歌謡を唱へ  
踊るとす又山と炬を  
母屋の字と號す

松崎山を涌ち

日所あり

法苑松崎山を涌ち  
上人あり

妙高寺

日所

高寺古馬天日君  
真年甲子多給野

神倉社

神倉の社  
一丁世三丁

此所之社秘あり  
中ノ年日者あり

赤山社

此所之社名護法社  
大所御社のとら感得あり

林丘寺宮

林丘寺村  
世五丁

此所之社名護法社  
此所之社名護法社

浄土寺

此所之社名護法社  
此所之社名護法社



詩心堂

一宮村  
程宗元

石川女心の心持と半宮と云  
新宮の女心の湯

曼珠院宮

日所  
号行内品

山宮宮宮山宮七百廿七名

北山沖坊

新宮村

新宮宮人山宮宮新宮宮  
うけ所堀内と新水あり

羽軍地

白川の川

存まざる地の地龍宮は北宮  
年中足利公龍城と云

白川紙

坂本及

春日社

在田山  
社額十二石

中細宮山宮宮新宮宮



人々心喜如坐  
寺  
寺  
寺

天台宗  
寺  
寺  
寺

万寿寺  
寺  
寺  
寺

浄土宗  
寺  
寺  
寺

浄土宗  
寺  
寺  
寺

浄土宗  
寺  
寺  
寺

浄土宗  
寺  
寺  
寺

浄土宗  
寺  
寺  
寺

浄土宗  
寺  
寺  
寺



我故公の創出する三堂の高  
園のりなるの山水巧にして  
奇石多し

六丁あり

聖徳太子光重  
二十五丁

弘敏釈迦仏。鵝沼石の手  
洗持り

三丁あり  
光重  
二十四丁

天台宗  
大台宗  
寺社  
形如山の十面鏡を  
向院の屋敷院を  
よみ

永観堂  
三丁あり  
浄土宗

寺  
世ふ名あり  
源あり

西へ四丁

満願寺  
示現山  
下名村

物經所用を  
寺田と云ふ  
寺に  
寺に

寺  
寺  
寺

寺  
寺  
寺

寺  
寺  
寺

寺  
寺  
寺

寺  
寺  
寺

寺  
寺  
寺



桂 花 堂  
花 堂 山

字 号 七 百 石 一 丁 切  
山 中 鐵 山 村 山 田 出 石

白 川 橋  
山 中 鐵 山 村 山 田 出 石

智 恵 院 宮  
山 中 鐵 山 村 山 田 出 石

花 頂 心 知 恵 院  
山 中 鐵 山 村 山 田 出 石

寺 名 七 百 石

淨 土 宗 總 持 山 中 鐵 山 村 山 田 出 石

山 中 鐵 山 村 山 田 出 石

一 丁 切

祇 園 社  
山 中 鐵 山 村 山 田 出 石

中 央 八 年 生 活 文 王 主 東 三 郎 八 子

西 ノ 間 福 田 姓 姓 名 〇 〇 〇 〇

今 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇

中 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇

夜 林 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇

今 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇

門 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇

〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇

〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇



上人より時宗とある坊中にて  
 寺あり瑞雲寺なり此道行  
 法也なり此道行法を以て  
 以て此坊を瑞雲寺と名  
 送り此坊より一瞬之中  
 とを以てして杜観地なる  
 びう。奇天社を名社の  
 傍の池を名水と云ふ  
 時宗  
 寺観八石  
 長楽寺  
 存する十一面観音を云ふ  
 東本願寺  
 朝所なり  
 東大寺  
 存するなりあり此道行  
 今玉双林寺  
 時宗  
 古くは名宗と徳年中時宗と  
 改む存するなり此道行  
 左所地あり此道行寺なり  
 徳中授法は此道行の山所也

とは坊中にて今余ありと云  
 今の長秋居園なり此道  
 その因也。西行居と人作居  
 あり。原秋居の堀入の室わ  
 集り此の坐落なり。菊溪  
 寺秋居の居あり此道行  
 の方あり。右相堂の旧地門  
 前の角なり。寺名瑞雲寺  
 安井観持寺  
 号光明院  
 存社中其堂徳天皇と云  
 今東経寺の方此道行  
 を安と世人安井今東経と称  
 安井淨門跡  
 浄経  
 二百石  
 西宮方と云ふ  
 先の西宮寺  
 七観音寺  
 下川原  
 存する七観音を安と云  
 古田馬丸六角寺  
 一丁あり



高臺寺

警壇と云ふ  
余銀五百石

十二丁

淨土宗を奉ず秘法如重の秘  
開と云ふ蔵和の傘亭を  
閣の物敷を云ふ。由院の  
世秋の石を所云

四丁

五箇山正法寺

寺名余

開を結ばぬ所中興出の人  
のとき時を云ふ。寺を云ふ  
也。何と云ふ寺を云ふ。志の法  
院と稱す。天恩を稱す。四丁

八坂法親寺

寺名心  
と云ふ

性善の徳地やして歴往を  
建てるを聖塔のと稱す

妙見堂

法親寺の  
寺名と云ふ

寺名と云ふ。九の塚を云ふ。徳  
を云ふ。寺名と云ふ。西丁



開巻 徳太子 太子 太子  
十三年 西暦 西暦 西暦  
と建て 方 方 方

大目堂 大目如來 弘法

子安親者 子安の塔 小安

樓門馬 樓門の馬 馬

凡成親者 凡成の親者 親者

田村生 田村の生 生

淡倉半 淡倉の半 半

青羽清水寺 青羽の清水寺 寺

西國 十三年 西暦 西暦 西暦  
太子 親者 開巻 弘法 大信 劫  
本 於 坂 上 田 村 名 大 目 二 年



長谷の都の内裏の殿舎と  
御く田村丸建を  
いくの院  
ふも観音  
安寸

地を控現社  
大己若命  
鳥所

石法陀生  
の地  
大己若命

音羽の瀧  
流る御清瀧  
しては増減あり  
百丁

秋中山清園寺  
共四丁  
存する中  
観音正暦廿一年  
御創りあり  
喜念院  
六方東院  
の清く  
替白壇あり  
清く  
清く  
清く

清水の滝より  
舞臺ありと  
御創りあり  
三丁  
余りあり

妙見堂  
十六丁  
通ぬ  
妙見堂  
は

本壽寺  
十五丁  
存する  
妙見堂  
は

通妙寺  
西大谷  
十五丁  
観音と人の御廟あり  
四の路  
東谷水との丸の  
大谷を  
つらし  
とを  
を  
年  
中  
け地  
ふる  
川  
を  
故  
不  
田  
名  
を  
り  
何  
く  
大  
谷  
と  
神  
を

安祥院  
西大谷の門  
前と  
小倉  
ち  
と  
の  
入  
四  
宮  
を  
妙  
子  
な

能登川のぬえたる  
善菩薩と  
安  
を  
と  
多  
給  
器  
は  
と  
う  
り

日親上人の廟  
塔あり  
茶屋あり  
十世日通上人  
御廟あり  
日親上人  
御廟の  
題目塔を  
塔あり  
再建あり  
おと  
う  
り

西大谷  
十五丁  
観音と人の御廟あり  
四の路  
東谷水との丸の  
大谷を  
つらし  
とを  
を  
年  
中  
け地  
ふる  
川  
を  
故  
不  
田  
名  
を  
り  
何  
く  
大  
谷  
と  
神  
を

安祥院  
西大谷の門  
前と  
小倉  
ち  
と  
の  
入  
四  
宮  
を  
妙  
子  
な

安祥院  
西大谷の門  
前と  
小倉  
ち  
と  
の  
入  
四  
宮  
を  
妙  
子  
な

安祥院  
西大谷の門  
前と  
小倉  
ち  
と  
の  
入  
四  
宮  
を  
妙  
子  
な

安祥院  
西大谷の門  
前と  
小倉  
ち  
と  
の  
入  
四  
宮  
を  
妙  
子  
な

安祥院  
西大谷の門  
前と  
小倉  
ち  
と  
の  
入  
四  
宮  
を  
妙  
子  
な

安祥院  
西大谷の門  
前と  
小倉  
ち  
と  
の  
入  
四  
宮  
を  
妙  
子  
な

安祥院  
西大谷の門  
前と  
小倉  
ち  
と  
の  
入  
四  
宮  
を  
妙  
子  
な



その河津院ある公の他園を本  
舎者知上人地蔵を修す

西光寺 浄土宗

本堂にありて女河津地蔵を修す  
上人知上人の医骨と納む

牢谷 古名門からありて  
口津津地蔵と納む

袋中寺 又多通大  
古門の西

本堂にありて仏を公他修す  
人より子の心經の首をの他と

善宮八幡社 伐中寺あり

○ゆらけ道も例名物清水地蔵  
佛を納むるを修す

又條大橋 古名  
中門あり

細橋居たりとありて  
及は九十二り余

次の日築の方明路

○二条大橋を結とあり  
繩を海と甲丁より行ふ  
甲丁を通るを修す

河條芝居 小例古例  
二座あり

神源寺 繩を甲丁  
浄土宗

左の地蔵を修す中より出現  
目録地蔵とありて修す止  
地蔵あり

東山建仁寺 繩を甲丁  
又山のあり

寺名は百八十二名  
建仁元年源頼朝が建仁寺  
其を甲丁の地蔵を修す釈迦仏  
○河津院地蔵ありて修す  
ふらふの地蔵の修す寺を川東  
の御宗沈むるを修す



子社 建仁寺所  
榎原上

新編子社 建仁寺所  
榎原上

○是より五名を以て建仁寺  
行ふも初めは依て樹立

大仏餅屋 大仏の餅屋  
初七角

解まじらうこと仏殿建立の時  
よりそふまへ人絶すう

耳塚 日本の方

久福元年の御徳候のとき  
新編子社の耳塚とて

実檢ふそふ人しを埋し  
ま

妙法院宮 大名家

浄經ふ六百世と名  
方廣寺

大佛殿 方廣寺  
十五丁

文正十年を國康公公法建  
立する言ふを於此に記す

云々後先言ふ十八の言  
仏殿も此の言ふに依りて

二十七年令刻力士つて  
高麗大寺人出御も初

廿九年初御満日を尋ね  
大慶の言ふに依りて

廿七年二月の言ふに依りて  
其言より礎の言ふに

鐘樓の言ふに依りて  
言ふ人言ふに依りて

言ふに依りて  
言ふに依りて

言ふに依りて  
言ふに依りて

言ふに依りて  
言ふに依りて

言ふに依りて  
言ふに依りて

言ふに依りて  
言ふに依りて

言ふに依りて  
言ふに依りて

言ふに依りて  
言ふに依りて

言ふに依りて  
言ふに依りて



智積院

高き新茂  
ち原五百石

本寺不動明王御成之原の地  
開心山堂無住

書源院

天名宗

本寺のちもて書成地界心  
盛化法

今熊中控現

北二丁 紀分三熊の之所控現とて創

水涌ち

ち飲  
六百八十二

本寺のちもて書成地界心  
人皇の御代に書成より書成

世々天子の御代とて書成  
弘金利と書成二丁

今熊の親方

西五百石  
札所

本寺の親方弘法大師御代

。是より六丁御代に書成  
へ至せしやあり

滝尾社

一の橋あり

本寺の親方弘法大師御代

高日寺御代

あふも入  
あり

本寺の親方弘法大師御代

公の建立七重御堂あり  
山内御代弘法大師御代

後の画壁親方十八古虎地  
御代の御代。毎年正月古虎地

御代の御代。毎年正月古虎地  
御代の御代。毎年正月古虎地

稻新社

社額百石

本寺の親方弘法大師御代



魂神古祖神田中祖天  
神例年四月神卯の日を式  
二月神午の日を式 三丁

石峯寺 百五丁と  
四十三丁

石余を多る新造仏廟を子  
果和らう

石余 石余  
石余

法苑宗廟を自修上人の自  
其の題目の石塔を造りて

小日蓮日明あまの送骨と  
油むねふを塔寺の号あり

七白ふ神の社にあり例  
年九月十九日正に集を

増光寺 石余  
石余

法苑宗廟を自修上人の自  
其の題目の石塔を造りて  
小日蓮日明あまの送骨と  
油むねふを塔寺の号あり  
七白ふ神の社にあり例  
年九月十九日正に集を



本堂は本所里美王の古継ちり  
 界心堂と云は本所里源と所  
 の傳と女を清澄持現社  
 例年九月九日神まつり

一言ち(三丁日の本所八丁上なるに三丁)

一 言 ち

本堂  
 銀を音

上 醒 醐 ち

ち銀四子石  
 土のまゝ

本堂は本所里美王の古継ちり  
 界心堂と云は本所里源と所  
 の傳と女を清澄持現社  
 例年九月九日神まつり

〇 又ちり(三丁日の本所八丁上なるに三丁)  
 又ちり(三丁日の本所八丁上なるに三丁)

日 聖 本 所 堂

法界ちと  
 ソノ

本堂は本所里美王の古継ちり  
 界心堂と云は本所里源と所  
 の傳と女を清澄持現社  
 例年九月九日神まつり

柳 大 町 神

ちり  
 ちり



西芳寺

寺ありて一曰の法入法  
随法を流河小細と入る事  
たる事縁あり

黄檗山方丈

明替元年建立圓心原えわ  
三三三  
三三三

三三三

寺ありて圓心原えわ  
三三三

常光寺

寺ありて圓心原えわ  
三三三

離宮八幡

寺ありて圓心原えわ  
三三三

寺ありて圓心原えわ  
三三三

弘徳心奥寺

寺ありて圓心原えわ  
三三三

朝日山

寺ありて圓心原えわ  
三三三

三三三

三三三

三三三

寺ありて圓心原えわ  
三三三



石山寺院

石山寺院  
三ノ目

永承六年園白松を公建之  
扇茂松改り宮の古縁より  
け非松松松松松松松松松松

○是より川をくると流す所を  
みす丁よりみす川へ入ると  
橋ありては橋と云ふ  
松が木を此松と云ふ  
松松松松松松松松松松

松後橋

松後橋  
百十間  
松松松松松松松松松松

指月山月橋院

指月山月橋院  
松松松松松松松松松松

神香宮

神香宮  
城山の西  
松松松松松松松松松松

神功皇后の御館なり  
是より三條とてまゝと云  
ゆすてり  
及は九十九と云

次の日

次の日  
松松松松松松松松松松

○三條の橋よりち所へ出て  
ゆすてり  
松松松松松松松松松松

貴布祿社

貴布祿社  
社松十二石  
松松松松松松松松松松

松松松松松松松松松松  
松松松松松松松松松松

松尾山鞍子

松尾山鞍子  
二百廿石  
松松松松松松松松松松

松松松松松松松松松松  
松松松松松松松松松松



。越中門前より廿四丁ゆけり  
新島村又七丁より廿八丁ゆき

江文大明神

三丁十丁  
鳥羽宮宮内卿神を奉るの氏  
神より例祭二月一日

心知之院

浄土屋  
寺領三丁石

本寺地蔵菩薩像徳太子の他  
開善公法王師文法年中建  
徳門院西海より上流よりい  
は凡心宗始るより是より尾  
ちとろうる

徳の清水

名所徳  
わかま

光西の浄院

古知古  
浄古宗

本寺はもと弘法公の他  
三丁十丁

泉山浄院

大泉の里

三丁十丁

本寺はもと弘法公の他  
浄院の  
三丁十丁

浄院

浄院の  
三丁十丁

本寺はもと弘法公の他  
浄院の  
三丁十丁

浄院

浄院の  
三丁十丁

本寺はもと弘法公の他  
浄院の  
三丁十丁

本寺はもと弘法公の他  
浄院の  
三丁十丁

在和井水

名所

呂津川

日

寺の院

日







○ 名 志 古  
○ 名 志 古  
○ 名 志 古  
○ 名 志 古

○ 古 輪 塔  
○ 古 輪 塔  
○ 古 輪 塔  
○ 古 輪 塔

○ 法 花 堂  
○ 法 花 堂  
○ 法 花 堂  
○ 法 花 堂

○ 法 花 堂  
○ 法 花 堂  
○ 法 花 堂  
○ 法 花 堂

○ 法 花 堂  
○ 法 花 堂  
○ 法 花 堂  
○ 法 花 堂

○ 法 花 堂  
○ 法 花 堂  
○ 法 花 堂  
○ 法 花 堂

○ 法 花 堂  
○ 法 花 堂  
○ 法 花 堂  
○ 法 花 堂

○ 法 花 堂  
○ 法 花 堂  
○ 法 花 堂  
○ 法 花 堂

○ 法 花 堂  
○ 法 花 堂  
○ 法 花 堂  
○ 法 花 堂

○ 法 花 堂  
○ 法 花 堂  
○ 法 花 堂  
○ 法 花 堂

横川中堂

正親寺  
慈光地



唐詩大出神  
其所入体  
早著うろろ

一ツね名あま

三井園城寺  
寺外  
石子石

三井園城寺  
西園寺  
西園寺  
西園寺

三井園城寺  
西園寺  
西園寺  
西園寺

三井園城寺  
西園寺  
西園寺  
西園寺

三井園城寺  
西園寺  
西園寺  
西園寺

三井園城寺  
西園寺  
西園寺  
西園寺

三井園城寺  
西園寺  
西園寺  
西園寺

三井園城寺  
西園寺  
西園寺  
西園寺

三井園城寺  
西園寺  
西園寺  
西園寺



次の日西山より乾方山

○ら修大橋をまききぬり  
京の物よりふち右の段  
りりふも二十丁冷ふ  
ふり川東山内村なり

右春原橋  
ちね  
六百石

馬場宗泰川橋造立を宗  
師如来を奉置座を二十  
丁の傍とあり橋の名所なり

○是より惟の辻あんの橋を  
へてとさか新田重く  
る八丁又南とぬれ十三  
丁なり

臨川寺  
程宗

本寺は新田仙宗を奉置座を  
霊地天龍寺  
程宗

ちね 子七百二十石

本寺は新田仙宗を奉置座を  
是利寺公建之塔院橋林寺  
仲國橋少智塚あり多宝院  
お後能研天のの四郎なり

あらし  
山  
橋の名所

ちねはは物とて吉井の橋を  
ちねはは物とて吉井の橋を  
ちねはは物とて吉井の橋を  
大堰川桂川も水六町あり  
保津川より流るる水合寺  
後月橋桂川へ渡せしあり  
ちねも名所なり

大堰川桂川  
保津川  
後月橋

那宮  
渡月橋

六十五丁



桓武天皇延暦廿二年秋  
島所神のいし人作所  
宮ふたせりく女清名を  
同楽齋ありあり  
のそ右女は垣いし人  
の送風あり

少念三寺院  
華巻寺  
四丁行て

伊豆島子ち銀百九石  
在る新也  
他は島上人宇右も所  
後の心と少念三寺院  
の心無古

祇王ち  
性生虎と云  
津七家

三寶寺  
在る  
獨王妓女仙の二人を  
銀して

瀬口入及等  
りり瀬口時  
信七家

念仏寺  
あつせと  
り

○寺名一の名  
試の坂  
火が世持現

本殿  
集法  
軍地  
院古

○寺名  
院古

鎌倉  
寺

寺



海老原後法師より  
時毎振堂前よりなるあり

。此れより高雄梅尾橋尾  
及より右のきく行の清  
滝川よりなる清滝の  
それより一のきく井より  
なりて八丁なり

又基の清涼寺  
さう釈迦  
寺も云

ち銘 九十七石  
なる新也森梅樹をりりく  
天竺の首領天竺の地之國  
傳來のよきなり

大光寺宮  
仲銘  
千十石余

廣沢池  
月水名  
名所なり

遍照寺  
池の向なり  
四丁なり

海上八幡宮  
十石

常とら池  
唐宮  
四丁

清滝女老  
六十五丁

。清滝寺より二丁なり  
併し川よりなる尾なり  
四丁

白岩清滝池  
黄壁宮

印令堂  
五丁

。此宮よりなる清滝寺より  
五丁なり  
五丁

。此宮よりなる清滝寺より  
十石のゆきなる梅の名所後  
の心は四圍八十八ヶ所なり



中...と...巡...  
六丁...  
六丁...

山...  
四丁...  
四丁...

山...  
四丁...  
四丁...

山...  
四丁...  
四丁...

山...  
四丁...  
四丁...

山...  
四丁...  
四丁...

山...  
四丁...  
四丁...

山...  
四丁...  
四丁...

山...  
四丁...  
四丁...

山...  
四丁...  
四丁...

山...  
四丁...  
四丁...

山...  
四丁...  
四丁...

山...  
四丁...  
四丁...

山...  
四丁...  
四丁...

山...  
四丁...  
四丁...

山...  
四丁...  
四丁...

山...  
四丁...  
四丁...

山...  
四丁...  
四丁...

山...  
四丁...  
四丁...

山...  
四丁...  
四丁...

山...  
四丁...  
四丁...

山...  
四丁...  
四丁...



次の日坤方明路

○之傑大橋がち所を甲斐海  
へをゆかり所とあるて  
右の敷と記さる西渡村十九  
丁行く事板津之川下り

梅宮社 社  
五十五石

酒子神子  
。かろは海より十丁

智神山稲吉 社  
七十九石

本宮虚空社  
の事  
七丁未

相尾神社 社  
九百三十三石

本社  
例祭四月上申日祭  
式者



新 經 寺  
子葉堂  
徑 宗

本寺如坐蒲觀音天竺仙  
秩年和為甚修の修り

櫻 原 村  
郭云の名松  
宿をりり

○はそことまの  
ちい紙紙

小 塚 山 積 持 寺  
修り花のち

本寺古寺師修り  
堂の影は及風の筆西行上人  
修り室日櫻山因さく  
多く花名所あり 二十丁

西 岩 倉  
合修寺  
天名宗

本寺古寺師修り  
修り室日櫻山因さく  
多く花名所あり 二十丁

西 山 三 社 寺  
四丁

本寺古寺師修り  
修り室日櫻山因さく  
多く花名所あり 二十丁

本寺古寺師修り  
修り室日櫻山因さく  
多く花名所あり 二十丁

西 山 三 社 寺  
四丁

本寺古寺師修り  
修り室日櫻山因さく  
多く花名所あり 二十丁

小 塚 山 積 持 寺  
修り花のち

櫻 原 村  
郭云の名松  
宿をりり

○はそことまの  
ちい紙紙

小 塚 山 積 持 寺  
修り花のち

櫻 原 村  
郭云の名松  
宿をりり

○はそことまの  
ちい紙紙

小 塚 山 積 持 寺  
修り花のち



古師。法華上人の廟。日榮  
此所。道生塔なり。三海  
十二丁

向日明神 社。三十七石  
二丁

鳥所。新羅相嘗不合。地  
右の神。入本殿の古。石。石  
右の額。石。風。石。例。石  
四月。中。夜。日

。向日町。小。龍。宮。を。行。り  
こ。ろ。ふ。一。名。を。と。り。て

長。天。酒。宮 社。前  
楓。多。し

額。六。重。元。法。皇。の。衣。冠。を。納。め  
夏。神。を。奉。り。奉。り。奉。り。奉。り。奉。り  
時。の。祭。と。あ。り。止。め。ら。れ。た。後  
と。り。て。若。狭。波。と。惜。し。む。ら。ま  
神。自。ら。さ。る。と。り。て。奉。り。奉。り

あ。く。あ。い。かん。ト  
三。リ。ヨ  
三。リ。ヨ

長。海。市。寺 去。言  
十八丁

本。寺。千。子。観。音。法。住。の。所。也  
若。狭。波。権。僧。師。三。門。力。吉  
三。門。力。吉  
三。門。力。吉

柳。谷。観。音。堂 去。言  
十八丁

本。寺。千。子。観。音。協。士。の。所  
比。奈。田。出。門。の。揚。柳。の  
滝。の。石。の。た。ら。り

小。倉。山。神。社 社。是。の。由  
四。丁

本。殿。小。倉。山。神。社。例。是。日。月  
二。日。神。祭。り

医。生。山。高。母。古 日  
本。寺。千。子。師。匠。の。所。也。三。丁

白。氣。山。成。就。寺 法。去。宗  
本。寺。千。子。師。匠。の。所。也。法。師

鷲。明。水 成就。寺。中。河  
人家。あり



白山控尻 観向ましく一帯の  
ろふ涌出の湯病ふけ水と暖  
はくふ感魚りり

山 中野 西ふらる

大心清光社

此所素書鳥字字子  
と銘をすそ右の額を風  
例年四月八日

観音寺 天正山守  
まの言葉

此寺観音普賢を祀る  
高院より深はくを後  
く絶る事あり

廣積寺 神原清心  
まの言葉

はまちとのふち殿六十石  
十つ由観音堂を新築  
打出木櫃高心什を築あり



市津川の東ふかき所

淀  
浄城  
水田中

同  
小橋  
孫橋

横  
大浜  
孫橋

下  
多村  
浄土宗

志  
塚寺

おのれは世に市津の橋の東に  
直に喜ぶるを及感るを  
道徳の行まり丈夫を喜せんと  
此の如く世に女まことか  
死する所なり後直感を利  
繋して其後を橋をた  
ふると人とのみ

秋の心  
志の難  
前載あり



稲刈りいねかり 小枝こえだの  
刈りかり

粟あわ 粟あわの穂ほを刈り取らば  
清きよくは所ところとらば穂ほは清きよくは  
う貝かいと懐なつかしけぬなつかしぬ

小枝こえだ 鴨川鴨川

志し 志しの志し 志しの志し

志しの志し 志しの志し 志しの志し

城しろ 南宮なんぐう

此所こゝ 此所こゝ 此所こゝ 此所こゝ

六丁

北向きたむかひ 動院どういん 毎月初日  
廿五日

安楽あんらく 寺てら 院いん の地

高たか 高たかの高たか 高たかの高たか

心こころ 心こころの心こころ 心こころの心こころ

心こころの心こころ 心こころの心こころ 心こころの心こころ



ちよ四年にけりたをえ上人  
備前と伝通を帝をえ物  
しそ祈るの法を行ひしむをえ  
上人の法と神ありし高祖のさ  
係小祈願もふそ係ら度  
うまつるせもふ係て慈願高  
祖と係を。ね水自性のつ  
の心をと係を亭のつる  
おりの種の係とをえ。ま  
西のの塔なり

あつ 塚 ちよの  
つ 記

。ちよよりうまふ係  
よてつ 四丁

九 及 法

らまふ係が西の向日  
四神のまにせし十九日  
白日よりし神のまに  
二條の塔せん九日ヨ















